


平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 茨城県 】

1 実践テーマ	【 IV V 】
2 実施対象者	<p>鉾田市立旭東小学校</p> <p>テーマⅣ 第5学年1組35名 第6学年1組26名</p> <p>テーマⅤ 第1学年1組31名 第2学年1組27名 第3学年1組30名 第6学年1組26名</p> <p>参観保護者4名</p>
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名(学級活動)</p> <p>2 行事名( )</p> <p>3 その他( )</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>1 イベント名( )</p> <p>2 その他( )</p>
4 目標 (ねらい)	<p>○鉾田市のホストタウンであるベトナムと交流することにより、多文化への理解を深め、多様性を尊重する態度を育成する。</p> <p>○バトミントン体験教室を通して、スポーツに対する興味・関心を向上させ、スポーツを楽しむ心を育成する。</p>
5 取組内容	<p>1 事前学習 「I'm POSSIBLE」の活用。</p> <div style="display: flex; align-items: flex-start;">  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-left: 10px;"> <p>①「パラリンピックって何だろう」</p> <p>②「パラリンピックスポーツについて学ぼう」</p> <p>6年生対象に、コンピュータ室にて座学で学習。</p> </div> </div> <p>2 ベトナムの方との交流（第5・6年生）</p> <div style="display: flex; align-items: flex-start;">  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-left: 10px;"> <p>①あいさつ・自己紹介</p> <p>②パワーポイントを活用してのベトナムの紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉・料理・文化</li> </ul> <p>③ベトナムの遊び紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童との遊びを通して交流。</li> </ul> </div> </div>

3オリンピックとの交流 バドミントン池田信太郎氏



- ①第Ⅰ部講演及びデモンストレーション 1・2・3・6年生, 保護者
- ②第Ⅱ部バドミントン体験教室 6年生
  - ・ウォーミングアップ
  - ・バドミントン基本動作
  - ・ミニゲーム
  - ・質問タイム

6 主な成果

- アンケートの主な変容(7月→1月)
  - ・あきらめずに最後まで頑張ることができていますか。
    - 「はい」68.7% → 71.3%
  - ・休み時間に積極的に外で運動していますか。
    - 「はい」72.1% → 76.2%
  - ・業間運動に一生懸命取り組んでいますか。
    - 「はい」76.5% → 77.3%
- 本校はスポーツが大変盛んであり, 児童は空手やキックボクシングなど12種目のスポーツ少年団に所属している。アンケート結果からも, 最後まであきらめないという気持ちを明確にしっかり意識して, スポーツに取り組む児童は増えてきている。
- 2月に予定している縄跳び大会に向けて, スポーツが苦手な児童に熱心に教えたり, 励ますなど, 温かい声かけをする児童が増えた。

7 実践において工夫した点(事業の特色)

- 本校がある地域は, 大変農業が盛んであり, 保護者も農家が多い。農業実習生として外国の方を受け入れている保護者もあり, ゲストティーチャーとしてお招きし, 児童に言葉や文化を紹介してくれている。今回のベトナムの方も農業実習生である。他にもインドネシアの方が来校し交流を深めた。児童は交流に慣れており, 意欲的である。

8 主な課題等

- 計画ではパラリンピアンを招いてのスポーツ体験教室であったが, 講師選定が難航し, 助言をいただいて, 今回の計画実施になった。そのため, 取り組む時期が若干遅れてしまった。体験教室直前では, インフルエンザ急増時期に重なってしまい, 4・5年生学級閉鎖の状態での実施となってしまった。主である行事の実施時期は11月から遅くとも12月にするべきであった。
- 全児童の体験を計画していたが, どの学習も6年生中心となってしまった。発達段階に応じた計画をしっかり立案していく必要がある。

9 来年度以降の実施予定

- 2年連続で実施校に選んでいただき, 貴重な体験を積むことができた。1年目は車いすバスケットとおもてなし講座, 2年目は世界の文化の理解やオリンピックとの交流を通してスポーツに親しむ心を育成することができた。来年度も実施校を要望する予定である。実践テーマⅢである「スポーツを通じたインクルーシブな社会(共生社会)の構築」に取り組みたいと考えている。